

世界の平和、海の平和を願う 戦没した船と海員の資料館
「沖縄県平和祈念資料館」からの訪問見学メンバーと有意義な意見交換

「沖縄県平和祈念資料館」は、2000年の開館以降、初めてのリニューアルに取り組んでおり、沖縄戦研究者などで構成する監修委員会を組織し、いろいろな施設などを見学してアドバイスをもらうことで、リニューアルを良い内容にしたいと、1月15日に「沖縄県平和祈念資料館」の職員を中心とするメンバーが、神戸の全日本海員組合関西地方支部内にある「戦没した船と海員の資料館」を訪問、館内の展示物を見学し意見交換を行った。

「沖縄県平和祈念資料館」では、現行の「戦時船舶の犠牲」の展示内容を充実することを検討しており「戦没した船と海員の資料館」の展示を参考にしたいと、沖縄県平和祈念資料館主事の川満彰さん、同資料館主幹の比嘉栄司さん、関東学院大学名誉教授の林博史さん、恩納村史編さん係の瀬戸隆博さん、乃村工藝社プランニングディレクター齋藤恵理さんの5人が、「戦没した船と海員の資料館」の浦隆幸館長（全日本海員組合関西地方支部長）、資料館スタッフの岡村世紀一さん、大野信良事務局長と意見交換を行い、展示内容については、戦没船に関連する保管資料で詳細な説明を行った。

意見交換後「沖縄県平和祈念資料館」の職員からは、「戦没船に関連するデータなどは、スタッフが時間をかけてまとめ上げた努力が伺える。現存数の少ない貴重な資料も多く資料館のリニューアルを進めていくうえで大変参考になりました」と、感謝が伝えられた。

沖縄県平和祈念資料館

平和祈念公園内にあり、戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく後世に伝え、全世界の人々に恒久平和の樹立に寄与するため設立されたもの。人間の尊厳を何よりも重く見て、戦争につながる一切の行為を否定し、平和を求め愛する「沖縄のこころ」を伝えています。

「海員だより」